

重点的検討課題及び主な取組み状況について

令和5年8月30日

少子化対策・子育て支援専門部会事務局

<重点的検討課題①>

20代前半の女性の社会減への対応

<重点的検討課題②>

子育て家庭の育児の負担感の軽減

1 ふりかえり

<重点的検討課題①>

20代前半の女性の社会減への対応

【現状】

- ・ 20～24歳の女性の社会減による**男女数の不均衡**は、**今後の出生数に大きく影響**。
- ・ この時期は就職期と重なるが、県内企業は男性に比べ**女性から就職先として選ばれていない**。

【検討の方向性】

女性の転入促進に向けて、

- ・ **官民一丸**となり、
- ・ **女性が働きやすく、活躍できる環境づくりを推進**するとともに、
- ・ **より若い世代へのアプローチ**に取り組む。

2 主な意見

【現状や取組みに関する意見】

- ・ 中高生から「女性の県外流出が止まらない理由」や、「本県の魅力が不足しているところ」について意見をもらうことも必要。
- ・ 今の若者（Z世代など）の傾向を踏まえた発信が必要。
- ・ 家事全般における男女間のアンコンシャス・バイアスを雇用者・被雇用者ともに、なくすような取組みが必要。
- ・ 新しい風を吹かせてくれる企業が、各業種で出てくると刺激になる。

3 令和5年度の県の主な取り組み

女性から選ばれる職場環境づくりの推進

- ・若い女性の社会減や少子化の現状について、企業のトップとも危機意識を共有するセミナー等を開催し、官民一丸となって、女性が活躍できる職場づくりの推進を決意。

県内企業の情報提供の強化

- ・企業情報サイトのリニューアル、新たな情報発信機能の構築。

中高生と女性社員との交流機会の創出

- ・若い世代の意見を直接聞くとともに、本県で働くイメージを持ってもらうために、中高生を対象とした座談会や女性社員との交流会を開催。

アンコンシャス・バイアス（無意識の思い込み）の解消

- ・家庭や地域、職場におけるアンコンシャス・バイアスの気づきを促し、解消に向けたアクションを促進。

企業成長×女性活躍 企業トップセミナー ～就職期の若者に選ばれる企業のメソッドを学ぶ～

日時 令和5年8月8日(火) 15:00~17:00
 場所 とやま自遊館ホール(富山駅北)
 参加者 企業経営者等 530名(リアル・オンライン)
 基調講演 『女性人口が生み出す富山人口の未来
 ~なぜ富山存続のキーマンは



天野 馨南子 氏
 県政エグゼクティブアドバイザー
 (株)ニッセイ基礎研究所
 人口動態シニアリサーチャー

「経営者」なのか~』

プレミアムトークセッション -ここで聞くZ世代の就活-



プレミアムトークセッション



印象に残ったキーワードをリアルで共有

参加者の意見

- データに基づいた講演は説得力があった。
- まずは、自分の固定観念を壊すことが大事だと思った。
- 女性に選ばれないと男性にも選ばれない。男女ともに働きやすい環境づくりを目指さないといけない。
- Z世代の価値観が私たちと真逆である。世代間の認識ギャップを理解したい。
- Z世代に寄り添った取組みの推進と、会社の強みを数値化し、発信することが大切。
- 若者に訴求する会社PRの方法を早急に考えるべきと痛感した。
- 現に働いている若い職員にやりがいを持って働いてもらえるようにしたい。
- 県として、女性活躍、女性誘致の本気度を感じた。

中高生×女性管理職交流促進事業の概要

中高生にライフプランやキャリア形成について考え、県内就職の視野を持っていただくため、中高生と県内企業の女性社員との交流会を開催

日 時：令和5年8月21日（月）午前・午後各1回開催

場 所：コワーキングスペース hiraku（富山市内）

参加者：県内在住の中高生 計44名

参加企業（五十音順）※各回5社

- ・ (株)ジャパンフラワーコーポレーション
- ・ 正栄産業(株)
- ・ 第一生命保険(株)富山支社
- ・ 立山黒部貫光(株)
- ・ TSK(株)
- ・ 合同会社ハピオブ
- ・ (株)北陸銀行
- ・ 北陸コンピュータ・サービス(株)
- ・ 前田薬品工業(株)
- ・ 富山県庁



参加者の意見

■ 中高生

- 思っていた以上に色々な分野で活躍できる企業があることを知った。
- ライフイベント（結婚、出産、子育て）のことも考えて県外就職か、県内就職か考えないといけないと思った。
- 参加された社会人の方々が楽しそうに意欲的に仕事をされているので富山での就職も考えてみたい。
- 県外への進学、就職を考えていたが、富山の良いところをもっと確認してみたくなった。

■ 企業

- 中高生がどのような過程で将来を決めていくのか、どこから情報を取るのか生の声を聞けて良かった。
- 今後の採用活動や会社のPRに活かしたい。

1 ふりかえり

<重点的検討課題②>

子育て家庭の育児の負担感の軽減

【現状】

- ・ アンケート結果(子育て支援サービスに関する調査)では、**こどもを増やすにあたっての課題として、「子育てや教育にお金がかかりすぎる」「妊娠・出産・育児の心理的・身体的負担」が多数**となっている。

【検討の方向性】

これらの負担感を軽減するため、

- ・ **経済的支援の拡充**や**共働き・共育ての推進**、**子育て支援サービスの利用促進**などに取り組み、
- ・ **妊娠前から出産、子育て期までの切れ目のない支援を充実し、**
- ・ **子育て家庭のウェルビーイングの向上**を図る。

2 主な意見

【現状や取組みに関する意見】

- ・ 0歳から2歳児の保育料の負担感が大きい。すべてのこどもの保育料を無償にすべき。
- ・ こども未来戦略方針案における「こども誰でも通園制度（仮称）」を創設すべき。
- ・ 課題の打ち出し方について、育児＝負担というイメージとならないようにしてもらいたい。
- ・ 富山県だからこそできる子育ての魅力をアピールすることも必要ではないか。

3 令和5年度の県の主な取り組み

国への要望活動

- ・ 0歳から2歳児の保育料無償化の対象拡大、こども医療費助成制度の創設、不妊治療の保険適用範囲の拡大等について国に要望

妊娠前から子育て期までの切れ目ない支援

- ・ 将来子どもを望む夫婦等を対象としたプレ妊活健診の実施
- ・ 子育て応援券を電子化のうえ一律3万円に拡充、新たな出産・子育て支援ポイント制度の導入に向けた取り組み
- ・ 産後ヘルパーの人材の確保対策への支援及び研修会開催等

社会全体で子育てを応援する機運の醸成

- ・ 新田知事が「こどもまんなか応援サポーター」に就任宣言
- ・ 子育て支援サービスの利用促進等を目的とした動画配信
- ・ 民間施設における子育て家庭に配慮したサービス提供や施設整備を支援

働き方改革の推進

- ・ 男女共に家事・育児を担い、キャリア形成ができるよう、男性の育休取得促進等、働き方改革を推進

「こどもまんなか応援サポーター」宣言の概要

令和5年8月8日、こども家庭庁が掲げる「こどもまんなか」の趣旨に賛同し、「こどもまんなか応援サポーター」に就任する宣言を行いました。

【こどもまんなか応援サポーター】とは

こども家庭庁は、下記の実践を行う個人や地方自治体、団体や企業を「こどもまんなか応援サポーター」と位置付け。

- ①こどもたちのために何がもっともよいことを常に考え、こどもたちが健やかで幸せに成長できるような社会を実現するという「こどもまんなか宣言」の趣旨に賛同。
- ②サポーター自身が考える「こどもまんなか」なアクションを実行する。
- ③SNS等で「#こどもまんなかやってみた」をつけて発信する。

・宣言の様子は、県公式YouTubeで公開中！「#こどもまんなかやってみた」

・県内全市町村が「こどもまんなか」の趣旨に賛同。県と市町村がワンチームとなり、切れ目ない包括的な支援策を推進します。

